

# 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科 I 部	学年 必修/ 選択	1 必修	開講区分 授業形態	前期 講義	担当教員 石川 和美 先生		
	ITリテラシー					時間数 (単位) (2)	30	授業回数 15

## 〔授業の学習内容と心構え〕

大学、専門学校、企業、PCスクールでOffice系資格対策講座の実施経験があり、有資格者の教員が授業を実施します。

Windows(ハード)で、MicrisoftOffice(Word=効率が良く効果的な文書作成する。Excel=様々な計算処理を行い必要な書類を作成し、また顧客のデータを管理する。PowerPoint=プレゼンテーションを作成し発表する。)将来の仕事で活用するだけではなく、学生生活において様々な学習にも活用出来るように学習していきます。

## 〔到達目標〕

学習を通して、社会へ出た際、どのようなジャンルの仕事であっても、事務処理に困らないためのスキルを習得します。操作をマスターし、さらに機能の理解を深め、将来自分自身の仕事に役立つ使い方が出来るよう学習していきます。

## 〔使用教材、参考文献等〕

随時、必要に応じてプリント配布

## 〔準備学習・時間外学習〕

2回目以降、ブラインドタッチが出来るよう、毎回、タイピング練習を行います。(https://www.e-typing.ne.jp/)

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	ITリテラシーとは何かを理解し活用出来る	ITリテラシーや、情報活用について得た正しい知識を、自分の端末で活用出来る
2	ビジネスメールの基礎知識 ① ビジネスメールとは何か・ビジネスメールの基礎知識	ビジネスメールの必要性を理解し、基本的な作成方法とレイアウトを理解出来る
3	ビジネスメールの基礎知識 ② ビジネスメールを作成する際の注意点	ビジネスメールの注意点を理解し必要な用件のメールを正しく作成出来る
4	ビジネスメールの基礎知識 ③ 好印象のメールを作成する	相手の状況を考慮した文章を追加し好印象のメールを作成出来る
5	敬語① 敬語とは何か・敬語の種類・基本的な敬語	敬語の必要性を理解し、敬語の種類と基本的な敬語を活用出来る。(ビジネスメール・ビジネス文書作成に活用出来る)
6	小テスト1実施(学習のまとめ)	第1~5回の知識・操作の習得確認として小テストを実施
7	敬語② 文書・口語の敬語表現 接遇用語	文書・口語での敬語の違いと接遇用語を理解し活用出来る(履歴書での表現・面接時に口頭での表現)
8	ビジネス文書① ビジネス文書とは何か ビジネス文書の種類 社内文書	ビジネス文書の必要性と、文書の種類を理解出来る ビジネス文書のレイアウトを理解し、社内文書を作成出来る
9	ビジネス文書② 社外文書① 文章の区切りかた	社外文書のレイアウトを理解し、活用出来る 正しい句読点や表現を理解出来る
10	ビジネス文書③ 社外文書②	WEBのテンプレートを活用し自分なりのアレンジし、必要な文書を作成出来る
11	小テスト2実施(学習のまとめ)	第7~10回の知識・操作の習得確認として小テストを実施
12	ビジネス文書の活用(社交文書) 礼状・わび状について	テンプレートをアレンジし、自分の気持ちや想いを表現した礼状を作成出来る
13	ビジネスシーンでのIT活用① ファイルの保存について(USBメモリー・クラウド・メール添付)	作成したデータの保存先について理解し活用出来る Webメールの活用
14	ビジネスシーンでのIT活用② プレゼンテーションテクニック(基礎)	プレゼンテーションでの効果的な表現を理解し活用出来る (箇条書き・フォントの種類・色・態度)
15	期末試験	期末試験・評価と評価の解説

## 〔評価について〕

評価試験として  
第6回目・第11回目に小テスト実施(各30点)  
第15回目に期末試験(40点)を実施し、  
合計100点で評価は学則規定に準ずる。

## 〔特記事項〕

ITリテラシー・情報モラルの知識を理解し、実装出来ることが大切です。  
学校や企業など、それぞれ必要な情報を発信、活用、表現できる事が求められる現代で私達は生きています。多方面で情報に関するマナーをスキルとして習得しましょう。このスキルは将来の皆さんにも大いに役立つものなのでぜひ積極的に参加してください。

## 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	1	開講区分	前期	担当教員 内堀 昭宜 先生		
授業科目名	理学療法基礎科学	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数 15

### 【授業の学習内容と心構え】

スポーツ科学修士であり呼吸器系臨床経験に長く携わる理学療法士が、理学療法に関連のある内容を確認しその理解に役立て、学問として基礎となる、物理学、生物学等の科学を学んでいく。この教科を受講することで基礎医学の解剖学・生理学に対する苦手意識が改善され、より具体的に理学療法士像を構築できるものと考える。つながりのある授業なのでしっかりと臨んでほしい。

### 【到達目標】

理学療法に関わる科学の基礎的な内容を理解できるようになる。

【使用教材、参考文献等】 適宜、プリントを配布する。	【準備学習・時間外学習】 授業で行なったことを反復して復習をし、確実に身に付けることが望ましい。
-------------------------------	---

回	【授業概要】	到達目標(できるようになること)
1	【オリエンテーション】 授業の目的、グループワーク	グループワークの目的を気づき、説明することができる。
2	【数字を扱う】 ～リハビリテーション料(単位)とコスト①～	医療保険と介護保険の違いを理解し、理学療法を実施することで生じるコストを計算できる。
3	【数字を扱う】 ～リハビリテーション料(単価)とコスト②～	医療保険と介護保険の違いを理解し、理学療法を実施することで生じるコストを計算できる。
4	【体験 実際に計算しよう】 ～歩行速度を算出してみよう～	歩行速度を算出することができる。
5	歩行速度の振り返り 【数字を扱う】～文章題を方程式で解く～	方程式を使用し、文章題から歩行速度を計算することができる。
6	【形に慣れる】① ～相似と合同～	相似と合同について説明することができる。
7	ここまで振り返り・復習	理学療法基礎科学の前半で取り上げた内容について説明することができる。
8	確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める。
9	【形に慣れる】② ～平方根、三平方の定理、三角比～	平方根、三平方の定理、三角比について説明することができる。
10	【力と運動】① ～“力”とは、作用・反作用の法則・てこ～	作用・反作用の法則・てこについて説明することができる。
11	【力と運動】② ～ベクトル、ベクトルの合成・分解～	ベクトル、ベクトルの合成・分解について説明できるようになる。
12	【力と運動】③ ～力のつり合い～	力のつり合いについて説明できるようになる。
13	【力と運動】④ ～重心とは、重心を求めてみよう～	重心とは、重心を求めてみようについて説明することができる。
14	【運動強度に関わる計算】 ～代謝当量(MET)、心拍数からみた運動強度～	代謝当量(MET)、心拍数からみた運動強度について説明することができる。
15	まとめ	理学療法基礎科学で取り上げた内容について説明することができる。

【評価について】 評価は筆記試験で行う。 小テスト60%以上。 定期テスト(確認・期末)60%以上、配点割合は確認テスト(50%)、期末テスト(50%)とする。	【特記事項】 服装や髪形に留意すること。 スケジュールは変更の場合あり。
---	--

# 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	1	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名						小川 達也 先生		
保健体育	必修/ 選択	必修	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)  
元プロサッカーボールチーム所属のセラピストが、ヨガ・テーピング・その他の運動療法を通して、身体コンディショニングについて実技の授業を行う。

## [到達目標]

応急処置技術(テープ)を学び、実践可能なレベルへ到達する。

## [使用教材、参考文献等]

テープのポイントはこれだ

## [準備学習・時間外学習]

初めて行なう技術であるため、授業で行なったことを反復練習による基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	コンディショニングについて	コンディショニングの定義を理解できる。
2	自重トレーニングを学ぶ(初級編)	自重トレーニングの方法を理解できる。
3	自重トレーニングを学ぶ(中級編)	自重トレーニングの手順を理解できる。
4	自重トレーニングを学ぶ(上級編)	自重トレーニングを実践できる。
5	筋肉の特徴について(初級編)	筋肉の特徴を理解できる。
6	筋肉の構造について(中級編)	筋肉の構造を理解できる。
7	体の中の筋肉について(上級編)	様々な筋肉を理解し説明ができる。
8	ストレッチングを学ぶ(初級編)…小テスト(10点)	ストレッチングの原理を理解できる。
9	ストレッチングを学ぶ(中級編)	ストレッチングの方法を理解できる。
10	ストレッチングを学ぶ(上級編)	ストレッチングを実践できる。
11	マッサージを学ぶ(初級編)…小テスト(10点)	マッサージの原理を理解できる。
12	マッサージを学ぶ(中級編)	マッサージの方法を理解できる。
13	マッサージを学ぶ(上級編)	マッサージを実践できる。
14	期末テスト	テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。
15	コンディショニング(トピックス)	今期授業の総復習とコンディショニングの全体観を理解する。

## [評価について]

評価は学則規定に準ずる。筆記試験は小テスト(30点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則に準ずる。

## [特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。日字様に応じて配布プリントによる授業を行う。

# 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科Ⅰ部		学年 必修/ 選択	1 必修	開講区分 授業形態	前期 講義	担当教員 岩佐 浩之 先生				
	心理学						時間数 (単位)	30 (2)			
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											

教育カウンセラーとして2001年より専門学校を中心に実践的な心理学を教授する傍ら、日本語学校や技能実習生の受け入れにおけるカウンセリングも行っている。本授業では教科書的でない、生活の中に生きる心理学の授業を行うことで心理学的アプローチに役立てて欲しい。

## 〔到達目標〕

心理学、コミュニケーションを学び、利用者さんだけではなく、自分自身のメンタルも健康も維持できるようになる。

## 〔使用教材、参考文献等〕

授業ごとに必要に応じて資料配布

## 〔準備学習・時間外学習〕

日常生活で疑問に思うことを見つけ、授業で質問する。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	・オリエンテーション ・講師自己紹介	一年間の流れを説明する。一年後の自分の姿をイメージできるようになる。
2	目標設定	目標設定の立て方。目標とは何かを理解する。目標を立てられるようになる。
3	人脈	人脈の作り方・整理の仕方を学ぶ。自分の人脈を整理する。
4	経済的健康 その1 収入の種類	・従業員・自営業・オーナー・投資家などの収入の種類を理解する。
5	目標達成の立て方	①情報 ②モチベーション ③イメージ ④願望 15のステップ一つ一つを理解する。
6	目標達成の立て方②	⑤決断する ⑥目標設定 ⑦プランを立てる ⑧夢泥棒 ⑨仲間探し 15のステップを理解する。
7	目標達成の立て方③	⑩環境づくり ⑪行動する ⑫毎日の成果のチェック
8	目標達成の立て方④	⑬習慣にする ⑭潜在意識に落とし込む ⑮実現
9	精神的背景	心の病気について知り、対処法を身につける。
10	身体的健康	病気のメカニズム・対処法を身につける。
11	心理テスト	エゴグラムの実施。自分の心の癖を知る。
12	経済的健康 その2 世の中	社会保障・税金などの知識を身につける。
13	質疑応答・復習	紙に書いて自由に
14	質疑応答・復習②	後期の課題を見つける。
15	定期試験	マークシート四択(過去問題)

## 〔評価について〕

- 評価は、毎回の課題レポートと定期試験の合計100点換算で行う。
- 授業内で学んだ知識を確認し学則規定に準ずる。

## 〔特記事項〕

基本的に1回ごとに完結する内容で行うが、過去の授業内容を元にステップアップしつつ行うため、毎回確実に授業で学んだ内容を身につけることを心がけること。

# 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科Ⅰ部		学年 必修/ 選択	1 必修	開講区分 授業形態	前期 演習	担当教員 藤林 殊巳	
	コミュニケーション論						時間数 (単位) 30 (2)	授業回数 15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)  
創業100年の老舗の三代目として、飲食店を経営し、また多岐にわたりビジネスを立ち上げ(国内・インド・フィリピン・中国・モルディブ・タイなど)現在に至る。流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業までを経験する。現在3社を経営し介護施設の理事を務めるカウンセラーが心理学をわかりやすく講義します。

## 〔到達目標〕

自分とのコミュニケーション・1対1のコミュニケーション…1対多グループコミュニケーションを学び、活用できるようになる。

## 〔使用教材、参考文献等〕

## 〔準備学習・時間外学習〕

授業ごとに必要に応じて資料配布

日常生活で疑問に思うことを見つける、授業で質問する。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	コミュニケーションとは、バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション。メラビアンの法則	コミュニケーションの基本を学び理解する
2	グループでの会話の基本、クッショニ言葉	自己主張ができる、グループの中でコミュニティがきちんととれるようになる
3	仕事上のコミュニケーションの基本、交渉説得プレゼン	交渉技術・プレゼン技術を学び、使えるようになる
4	自己覚知・アンガーマネジメント	感情とコミュニケーションの関係を学ぶ
5	社会的スキルとコミュニケーション	挨拶・敬語・丁寧語が使えるようになる
6	スマホを使ったコミュニケーション	メール・Line・FAX・手紙のルールを身に付ける
7	人・環境・プロセスWINWIN	サービスとコミュニケーションについて学び活用できるようになる
8	社会的スキルⅠ 対人行動	社会的スキルの実践 習得をする 5接客 6訪問 7訪問(謝る おわびをする)
9	社会的スキルの実践	・社会人の基本的マナー・教養、身につけるべき知識を学習する 日々の行動から意識し活用できるようにする
10	サービスマインドⅠ	・サービス社会をふまえて。サービスマインドとは? サービスとは?について学習する実践の場に活かす
11	サービスマインドとは	・サービスの姿勢を習得満足度を向上させると同時にやりがいを持ってサービスを提供できる力を身につける
12	サービスマインドⅡ サービスの基本要素	・人(あなた)と顧客／顧客満足度の関係を整理し、適切な行動と顧客理解、顧客ニーズを事例とともに学習する
13	サービスマインドⅡ サービスの基本要素	・企業、店舗における経営理念、それを実現するための方針、サービスの方法を学び実践できるようになる
14	1回～13回までの復習	・定期試験対策
15	定期試験	

## 〔評価について〕

・評価は、筆記試験で行う。・授業内で学んだ知識を確認する。・定期試験は、60分とし、終了後解説をおこなう。・筆記試験は、小テスト(40点) 期末テスト(60点) の合計100点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。

## 〔特記事項〕

基本的に1回ごとに完結する内容で行うが、過去の授業内容を元にステップアップしつつ行うため、毎回確実に内容を身に着けることを心がけること。

# 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部	授業科目名	学年	1	開講区分	前期	担当教員		
		必修 ・ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数
	解剖学Ⅰ(筋骨格)							

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)  
臨床解剖学分野での学識豊富な医師による講義で、人体の構造と発生を理解するために、構成する各系統のうち運動器系(骨格系)と内臓系の形態的特色と働き、並びに個体発生の基礎的事項についての知識を習得する。

## 【到達目標】

人体の構造を機能と関連づけて理解し、疾患の病態を理解する前に、身体の各部位の構造を理解できるようにする。

[使用教材、参考文献等]	[準備学習・時間外学習]
標準理学療法学・作業療法学 解剖学第4版(医学書院)、プロメテウス	専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	・オリエンテーション ・第1章;解剖学総論(その1)	解剖学的位置や方向示す解剖学用語を理解し、説明できる。
2	・第1章;解剖学総論(その2)	骨の性質や個々の骨の特徴的な構造を理解し、説明できる。
3	・第1章;解剖学総論(その3)	骨格全体の成り立ちするとともに、個々の骨の名称を理解し、説明できる。
4	・第2章;骨学総論	骨の形態や構造を理解し、説明できる。
5	・第3章;関節靭帯総論	関節の構造や機能などを理解し説明できる。
6	・第4章;筋系総論	筋の種類や構造を理解し、説明できる。
7	・筋骨格系のまとめ	前回までの範囲を理解し説明できる。
8	中間確認試験	試験により効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	第7章;内臓器系 内臓器官の基本構造	内臓器官の基本構造を理解し説明できる。
10	第7章;内臓器系 循環器(心臓)	心臓の基本構造を理解し説明できる。
11	第7章;内臓器系 循環器系(動脈)	動脈系の構造や名称を理解し説明できる。
12	第7章;内臓器系 循環器系(静脈・胎生期循環)	静脈系や胎生期の循環の構造や名称を理解し説明できる。
13	・内臓系(基本構造・心臓・動静脈・胎生期循環)のまとめ	中間確認試験から前回までの範囲を理解し説明できる。
14	・前期のまとめ	前期の範囲を理解し説明ができる。
15	・期末試験と解答解説・振り返り	試験により効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[評価について]	[特記事項]
中間確認試験30% 期末試験50% 確認試験20% で59%以下を不合格とする。	講義では、解剖をよりよく理解できるように、重要なポイントについてのみ解説する。学生は自主的に教科書を読み、人体の構造と機能についての理解を深めなければならない。

# 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	1	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名	解剖学Ⅰ(神経)		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)
							授業回数	15

## [授業の学習内容と心構え]

臨床解剖学分野での学識豊富な医師による講義で、医学的・科学的な総合的知識を得るとともに臨床現場で幅広い視野のもと治療の一端を担い、スペシャリストとなるため人体の正常な形態と構造、器官相互関係をその機能と関連付けて理解する。

## [到達目標]

理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや神経系の形態、構造に関する基礎的知識を学ぶ

## [使用教材、参考文献等]

標準理学療法学・作業療法学 解剖学。  
病気が見える。

## [準備学習・時間外学習]

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

[授業概要]		到達目標(できるようになること)
1	神経学総論: 神経系の区分、神経組織	神経系の構造を学習し理解する
2	中枢神経系の構成、末梢神経系の構成、髄膜、脳室系	白質、灰白質の意味する構造を理解する。神経背煮の機能区分を理解する
3	中枢神経系: 脳室系、脊髄	脊髄の外形、断面を理解する。
4	中枢神経系: 脊髄、脳幹: 延髄	脳幹の構造と働きを理解する
5	中枢神経系: 脳幹・橋、中脳	橋と中脳の構造と働きを理解する
6	中枢神経系: 網様体、中脳、小脳	中脳の構造と機能を理解する
7	中枢神経系: 小脳、復習	小脳の網を理解する
8	中間確認試験	試験により効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	間脳、大脳半球	間脳、大脳半球の表面と区分を理解する
10	大脳皮質、髓質、大脳皮質の機能局在	大脳皮質と髓質の構造を理解する。ブロードマンの分類を理解する
11	大脳皮質の機能局在、大脳基底核	大脳基底核の構造と働きを理解する
12	上行性伝導路	温痛覚、粗大触圧覚の上行性伝導路の経路を理解し覚える
13	上行性伝導路、下行性伝導路	識別性触圧覚、非意識性深部感覚上行性伝導路の経路、下行性伝道路を理解し覚える
14	下行性伝導路: 錐体路、錐体外路	下行性伝導路(錐体路・錐体外路)の経路を覚え理解する
15	期末試験	

## [評価について]

中間確認試験30% 期末試験50% 確認試験20% で59%以下を不合格とする。

## [特記事項]

講義では、解剖をよりよく理解できるように、重要なポイントについてのみ解説する。学生は自主的に教科書を読み、人体の構造と機能についての理解を深めなければならない。

# 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	1	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名	運動学		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(4)
							授業回数	30

## [授業の学習内容と心構え]

整形外科クリニックでの勤務経験とアスレティックトレーナー公認資格を有しサッカーワールドカップをはじめ多くのスポーツ現場で活動している理学療法士の専任教員が担当する。運動学に必要な力学・運動器の構造と機能に関するキーワードを覚え、人間の身体に運動が生じるメカニズムを関節ごとに理解していく。また、人間の基本的動作(起居動作、歩行動作など)のなりたち、異常が生じた場合の現象も理解する。理学療法の実務経験のある教員が、基礎的用語から徐々に解説を進める。解剖学・生理学の授業と共にきわめて重要な基礎科目であることを理解し、学習してほしい。下記16回を1回2コマに分けて実施する。

## [到達目標]

- ・人間の動作を観察・説明する際、運動学専門用語を正確に使って表現できるようになる。
- ・解剖学で学んだ構造の知識を元に、歩行動作を中心に起居動作の特徴を説明できるようになる。
- ・力学の知識をもとに、身体の操作方法の基本、障害発生時の問題など説明できるようになる。

[使用教材、参考文献等]	[準備学習・時間外学習]
基礎運動学第6版補訂中村隆一他著(医歯薬出版) 他隨時参照プリント配布	基礎科目である解剖学(筋骨格系)の知識が必須となるため、解剖授業の予習復習を徹底すること。基礎的な算数・数学の知識(三角関数・比率など)を復習すること。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1・2	オリエンテーション 運動学の基礎1 身体運動の面・軸・関節運動の名称	運動の面・軸・関節運動の名称を理解し、説明できる。
3・4	運動学の基礎2 運動方向と関節可動域	身体各関節の運動と関節可動域について理解し、説明することができる。
5・6	運動学の基礎3 前2回の復習 / 姿勢と肢位について	前2回の知識を確認し、自分の身体で表現できる。姿勢と肢位について説明できる。
7・8	運動器の構造と機能 骨・関節・筋の名称と機能	関節の種類・特徴を理解し、各関節ごとの分類・運動の特徴、筋の働きについて説明できる。
9・10	脊柱の構造と機能1 椎骨各部位の構造と特徴、脊椎の連結と生理的弯曲	脊柱の構造を理解し、骨模型を分類することができる。生理的弯曲の構造的利点を説明できる。
11・12	脊柱の構造と機能2 各部の椎間関節面の特徴と運動範囲	頸椎・胸椎・腰椎の連結部の構造を理解し、運動を説明することができる。
13・14	体幹とその運動1 体幹の筋とその機能	体幹の筋を位置関係を層構造とともに理解し、筋名・機能を説明できる。
15・16	前半の振り返り・質問受け付け 中間テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
17・18	体幹とその運動2 胸椎・胸郭の動きと呼吸について	呼吸時の胸郭の動き、吸息・呼息時それぞれどの筋が働くかを理解し、説明できる。
19・20	上肢帯と上肢の構造	上肢の機能を理解し、説明できる。 上肢の関節の名称を説明できる。
21・22	肩関節の構造と機能 1 肩甲骨の動きと周囲の筋	肩甲骨・鎖骨の動きを説明できる。 肩関節周囲の筋の働きを理解し、説明できる。
23・24	肩関節の構造と機能 2 肩関節の動きと筋の働き	肩甲上腕関節の動きに関わる筋を理解し、説明できる。
25・26	肘関節の構造と機能 1	肘関節の構造、周囲の靭帯の名称と働きを理解し、説明できる。
27・28	肘関節の構造と機能 2 前期の復習	肘関節周囲の筋の名称と働きを理解し、説明できる。
29・30	期末試験	前期に学習した運動学の内容のまとめを通じて、前期の内容の全体像を理解し、説明できる。

[評価について]	[特記事項]
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間のレポート・問題演習課題(30点)、期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。評価方法は社会情勢(新型コロナ)に応じて変更となる場合があります。	毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

# 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科 I 部	学年	1	開講区分	前期	担当教員						
					必修 ・ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 (4)	授業回数
授業科目名  生理学											

## [授業の学習内容と心構え]

臨床生理を専門とする医師による人体の機能を理解する学問である。人体の生理機能を理解するために、人体を構成する各要素(細胞・組織・器官)に分解してその個々の機能を理解するとともに、それら要素間の相互関係や統合関係を学ぶ。また、機能を理解するためには構造特有の機能の理解も同時に必要である。最終的には構造と機能を総合して、人体全体としての機能を学修する。

## [到達目標]

医療従事者として理学療法士が習得しておかなければならぬ人体生理反応を学ぶ。

人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官など)は、固有のはたらきや機能を持つ。生理学の講義を通し、これらの機能特性、またメカニズムを知る。

## [使用教材、参考文献等]

標準理学療法学・作業療法学 基礎分野 生理学

## [準備学習・時間外学習]

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。  
また、授業後は復習をして用語の意味を理解することが望ましい。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1・2	・オリエンテーション ・序章; 生理学とは(歴史と構成)	人体の機能を生部生理学の歴史と学び方を理解できる。
3・4	・人体の構成 細胞分裂と遺伝子	構造と機能からみた人体.各部名称.階層性.細胞から組織のあり方を理解できる。
5・6	・人体の構成 細胞と結合組織	人体の腔所と膜.機能から見た人体.細胞のエネルギー生成にどのようなものがあるかが理解できる。
7・8	・細胞と内部環境 細胞の働きと活動電位	細胞組織の静止電位・活動電位から一連の動きを把握し理解できる。
9・10	・細胞と内部環境 神経の興奮伝導と末梢神経	神経細胞の構造における興奮伝導のメカニズムを理解し末梢神経の分類を説明できる。
11・12	・神経系統 中枢神経と脳幹の仕組み	中枢神経系の機能とメカニズムを学び脳幹からの伝達回路が理解できる。
13・14	・神経系統 脊髄反射・伸張反射	脊柱の構造が理解でき、脊髄反射・伸張反射他、様々な反射について理解できる。
15・16	中間確認テスト・解説 脳・脳幹の仕組みと機能	テストにより効果測定を行う。後半に向けて脳幹が司る機能と小脳・大脳の構造と機能を理解できる。
17・18	大脳皮質の種類と機能	大脳皮質から基底核に至る機能と高次脳機能障害がもたらす仕組みが理解できる。
19・20	筋組織と骨組織	骨格筋の構造と機能との関係を学び筋の収縮から心筋のメカニズムを理解できる。
21・22	感覚と伝道経路	敵刺激と閾値・Weberの法則を理解でき情報の受容メカニズムと伝道路について理解できる。
23・24	血液組織と機能	血液の組織と役割が説明でき機能、調節メカニズムが理解できる。
25・26	心臓と循環	心臓の働きと全身の循環経路が説明でき刺激や興奮における伝導が理解できる。
27・28	心臓と血液	心拍出漁と血圧及び調節メカニズムが説明でき物質交換メカニズムが理解できる。
29・30	総復習 定期試験・解説	前期の総まとめと定期試験による習熟度を計る。

## [評価について]

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は中間確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

## [特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業・体験的な実習的学習を行なう。

# 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	運動機能論Ⅰ		須藤 久也 先生						
	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	

## [授業の学習内容と心構え]

筋骨格系理学療法を専門とする専任教員による「運動機能」の知識を基礎から学習する。運動学・解剖学の理解を助けるための授業とする。また、運動学の理解に必要な計算に関する知識の復習もおこなう。スポーツリハビリに特化し運動器系の臨床経験の豊富な理学療法士である教員が、臨床の現場で必要な知識を中心に概説・演習をおこなう。積極的に行動し、学ぶ態度が求められる。

## [到達目標]

- ・人体の関節、韌帯、筋に関する基本的な構造と機能一般を理解できる。
- ・頭蓋・脊柱・胸郭・上肢・下肢の連結の構造と、各部の名称を把握できる。
- ・骨格筋の構造と、上肢・下肢・体幹における各筋の起始・停止・作用とその走行を説明できる。

## [使用教材、参考文献等]

- ・基礎運動学 第6版 補訂 中村隆一他 著  
(医歯薬出版)
- ・配布資料

## [準備学習・時間外学習]

解剖学のテキスト、配布プリント等を十分に復習すること。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション	運動機能論Ⅰを受講する上で注意点を理解し、説明できる。
2	運動学・解剖学の基礎確認と復習	身体運動を表す用語の通りに自身の身体を動かせるようになる。
3	力学の基礎1	力学で出てくる用語を理解し、説明できる。基礎的な問題演習をおこない、意味を理解できる。
4	力学の基礎2	前回学んだ力学の知識を、身体操作に置き換えて説明することができる。
5	体幹機能について1	体幹の骨模型を用い、ランドマークを説明できる。骨模型をつなぎ合わせ、脊柱を形作る事ができる。
6	体幹機能について2	体幹の周囲の筋の起始・停止・作用を模型を使って説明することができる。
7	体幹機能について3	肩甲骨周囲の筋の起始・停止・作用を模型を使って説明することができる。
8	前半の復習 中間確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	体幹機能まとめ	体幹周囲の筋(腹部の筋)の構造を説明することができる。実際に体幹筋を活動させることができる。
10	上肢機能について1	上肢の骨模型を用い、ランドマークを説明できる。骨模型を用いて自由上肢を形作る事ができる。
11	上肢機能について2	上肢の関節の構造を説明することができる。上肢の関節を他動的に動かせるようになる。
12	上肢機能について3	上肢の筋の起始・停止・作用を模型を使って説明することができる。(上腕)
13	上肢機能について4	上肢の筋の起始・停止・作用を模型を使って説明することができる。(前腕・手)
14	下肢機能について	後期で学ぶ下肢の骨の構造を理解し、説明できる。
15	総括	前期学んだ内容の総復習。本講座の前期の概要を説明することができる。

## [評価について]

評価は筆記試験で行う。  
筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

## [特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

# 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科Ⅰ部		学年 必修/ 選択	1 必修	開講区分 授業形態	前期 講義	担当教員 入谷 拓哉 先生		
	救急救命(BLS)						時間数 (単位) 30 (2)	授業 回数 15	

## [授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

ライフセーバーとして救命の現場で実践活動の経験を積んだ教員が、救命の現場の実際を交えながら一般市民に求められる心肺蘇生の重要性を理解させ実践できるようになる知識や技術を習得する授業を行う。

## [到達目標]

ライフセービングの精神を理解し生命教育を通じ自分の大切な家族、友人、そして隣人の命を守りたいという人間的な愛の表現を学び、市民の義務の一つでもある心肺蘇生について習得する。心肺蘇生とAEDの知識と技術を身に着け、「習ったことがある」という体験レベルから「生命を救うことができる」という実践レベルになる。

## [使用教材、参考文献等]

教科書:「心肺蘇生教本」日本ライフセービング協会  
教材:レサシアン、AED、三角巾(学校準備)  
参考図書:「AT専門課程テキスト・救急処置」JSPO

## [準備学習・時間外学習]

心肺蘇生の実施方法について自宅で練習してみる。  
AEDの設置場所について、自宅周辺、学校周辺など確認しておく。  
三角巾での保護の仕方を反復練習する。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 人の命を守ること(ライフセービング)とは	スポーツの世界で仕事をする上で必要なことを準備する 市民の義務の一つでもあることを感じる
2	応急手当の基本、傷病者の観察 小テスト①	応急手当の定義について説明できる。 傷病者の観察について実践する。
3	ケガの手当、止血の仕方 小テスト②	ケガについて説明できる。 RICE処置、アイシング、止血について説明できる。
4	筋けいれん、熱傷、熱中症の手当 小テスト③	筋けいれん、熱傷、熱中症について、説明できる。 熱中症の対策と手当の方法について調べる。
5	包帯法・三角巾1【実技】	包帯、三角巾の役割について、説明できる。 八つ折り、本結び、しまい方、ケガの保護を修得する。
6	包帯法・三角巾2【実技】	三角巾でのケガの保護の仕方を習得する。
7	中間確認テスト(筆記試験) 解説	筆記テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
8	心肺蘇生の意義 小テスト④	教科書「第1~3章心肺蘇生法の意義」について調べ、なぜ心肺蘇生が必要なのか推測する。
9	心肺蘇生の手順 小テスト⑤	教科書「第4章心肺蘇生法の実際」について、心肺蘇生の手順を準備する。死戦期呼吸について調べる。
10	AEDの使い方 小テスト⑥	AEDについて、その必要性を理解し使い方を身につける 実際の現場の様子を推測して心構えについて準備する
11	人工呼吸と胸骨圧迫【実技】	フェイスシールドを使用した人工呼吸を習得する。 胸骨圧迫の注意点を学び、実際にできるように体験する
12	人工呼吸と胸骨圧迫Ⅱ、AEDの使い方【実技】	フェイスシールドを使用した人工呼吸と胸骨圧迫を習得する。 AEDの注意点を学び、実際にできるように体験する
13	小児乳児の心肺蘇生、気道異物除去 心肺蘇生とAED【実技】	教科書「第5~7章小児乳児のCPR気道異物除去」について調べる。心肺蘇生とAEDを繰り返し練習により実践できるようになる。
14	実技検定(心肺蘇生とAED)【実技】	実技検定による心肺蘇生とAEDの技術習得度を知る。
15	期末テスト(学科検定) 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

## [評価について]

評価は、筆記試験と実技試験と小テストで行う。  
筆記試験は確認テスト(30点)と期末テスト(20点)、実技試験は実技検定(20点)、小テスト(30点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

## [特記事項]

実技の場合は動きやすい服装をすること。女性はズボン着用を勧めます。

# 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	1	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名	リハビリテーション概論		必修/ 選択	必須	授業形態	講義	時間数 (単位)	15 (1)

## [授業の学習内容と心構え]

医療機関・高齢者施設での臨床現場経験と実習生指導にあたってきた理学療法士専任教員が医療人としての事象のとらえ方、対応を身に着けるために、ある講師である。医療人としての事象の捉え方、対応を身につけるために、リハビリテーションとは何かについて、その理念と歴史的背景、障がいの概念、リハビリテーションの過程、医療福祉制度の知識を身につける内容である。授業では、必要に応じてテーマを設定し、グループで発表を行う。理解を深めるため、積極的に参加してほしい。

## [到達目標]

- ・リハビリテーションの定義、領域、過程を理解し、説明することができる。
- ・リハビリテーションに関わる法律および制度を区別することができる。

## [使用教材、参考文献等]

授業時配布資料

入門リハビリテーション概論(医歯薬出版)

## [準備学習・時間外学習]

授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	リハビリテーションの理念、定義、語源、歴史 障がい者の「自立」とノーマライゼーション	リハビリテーションの理念、定義について説明することができる。
2	医療、保健、社会福祉とリハビリテーションの関わり方 リハビリテーションの領域	リハビリテーションの領域を区別することができる。
3	小テスト①健康と障がいの概念と障がい受容 ICIDHとICF	健康と障がいの概念と障がい受容について説明することができる。
4	ICIDHとICFの具体例 ICIDHとICFのメリットとデメリット	ICIDHとICFの項目を区別し、要素を分類することができる。
5	リハビリテーションの過程:急性期、回復期、生活期、終末期リハビリテーション	急性期、回復期、生活期、終末期リハビリテーションの特徴について説明することができる。
6	小テスト②リハビリテーションに関わる法律および制度	リハビリテーションに関わる法律および制度を区別することができる。
7	リハビリテーションにおける重要事項 インフォームドコンセント、チーム医療、EBM、個人情報保護法	リハビリテーションにおける重要事項のキーワードを説明できる。
8	総括 定期試験	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

[評価について]
評価は筆記試験で行う。
評価は学則規定に準ずる。
小テスト①②は各20点、定期試験は60点 合計100点満点で評価する

[特記事項]
毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

# 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科Ⅰ部		学年 必修/ 選択	1 必修	開講区分 授業形態	前期 講義	担当教員 山本 敏之 先生		
	必修	授業形態					時間数 (単位) 15 (1)	授業回数 8	

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

理学療法士として臨床現場で幅広い年齢層のリハビリテーションに携わり、実習生への指導も豊富な専任教員が、理学療法の概要を解説するとともに、運動療法の概念を解説し基礎的運動療法の方法について解剖・生理学的背景と疾患別に教授する。臨床現場において対象者に効果的な理学療法を提供できる基盤となるとを意識して受講してほしい。

## 〔到達目標〕

- ①保健・医療の専門家として理学療法の本質を理解する
- ②理学療法の歴史・定義・役割を理解する
- ③疾患別理学療法の基礎を理解する

## 〔使用教材、参考文献等〕

理学療法概論 第5版 奈良 勲  
概説理学療法 嶋田 智明 文明堂

## 〔準備学習・時間外学習〕

疾患を理解しやすいように積極的に事前学習する。  
授業を復習する事で、知識の定着に努める。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 理学療法の定義・歴史	理学療法の定義・役割・歴史を理解する
2	理学療法の法的身分・職域・関連職種	理学療法の法的身分・職域・関連職種を理解する
3	理学療法の実施過程	理学療法が行われる過程について理解する
4	理学療法の役割と対象になる障害	理学療法が対象になる障害を理解する
5	肢体不自由と理学療法	肢体不自由に対する理学療法を理解する
6	理学療法士に必要な資質、思考と手段	理学療法に必要な資質を理解し自己を高める
7	定期試験	理学療法の概要をどれくらい理解したかを筆記試験にて評価する。
8	総括・振り返り	理学療法の概要について、より理解を深める
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

## 〔評価について〕

筆記試験により成績判定する。  
評価は学則規定に準ずる。

## 〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。  
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

## 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員							
授業科目名	保健体育	必修/選択	必修	授業形態	演習	時間数(単位)	30(2)	授業回数					
[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 元プロサッカーボールチーム所属のセラピストが、ヨガ・テーピング・その他の運動療法を通して、身体コンディショニングについて実技の授業を行う。													
[到達目標] 応急処置技術(テーピング)を学び、実践可能なレベルへ到達する。													
[使用教材、参考文献等] テープのポイントはこれだ				[準備学習・時間外学習] 初めて行なう技術であるため、授業で行なったことを反復練習による基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。									
回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)											
1	コンディショニングについて	コンディショニングの定義を理解できる。											
2	自重トレーニングを学ぶ(初級編)	自重トレーニングの方法を理解できる。											
3	自重トレーニングを学ぶ(中級編)	自重トレーニングの手順を理解できる。											
4	自重トレーニングを学ぶ(上級編)	自重トレーニングを実践できる。											
5	筋肉の特徴について(初級編)	筋肉の特徴を理解できる。											
6	筋肉の構造について(中級編)	筋肉の構造を理解できる。											
7	体の中の筋肉について(上級編)	様々な筋肉を理解し説明ができる。											
8	ストレッチングを学ぶ(初級編)…小テスト(10点)	ストレッチングの原理を理解できる。											
9	ストレッチングを学ぶ(中級編)	ストレッチングの方法を理解できる。											
10	ストレッチングを学ぶ(上級編)	ストレッチングを実践できる。											
11	マッサージを学ぶ(初級編)…小テスト(10点)	マッサージの原理を理解できる。											
12	マッサージを学ぶ(中級編)	マッサージの方法を理解できる。											
13	マッサージを学ぶ(上級編)	マッサージを実践できる。											
14	期末テスト	テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。											
15	コンディショニング(トピックス)	今期授業の総復習とコンディショニングの全体観を理解する。											
[評価について] 評価は学則規定に準ずる。筆記試験は小テスト(30点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則に準ずる。				[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。日宇様に応じて配布プリントによる授業を行う。									

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員 岩佐 浩之 先生	
授業科目名	心理学	必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位) 30 (2)	授業 回数 15

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

教育カウンセラーとして2001年より専門学校を中心に実践的な心理学を教授する傍ら、日本語学校や技能実習生の受け入れにおけるカウンセリングも行っている。本授業では教科書的でない、生活の中に生きる心理学の授業を行うことで心理学的アプローチに役立てて欲しい。

## 〔到達目標〕

心理学、コミュニケーションを学び、利用者さんだけではなく、自分自身のメンタルも健康も維持できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

授業ごとに必要に応じて資料配布

### 〔準備學習・時間外學習〕

日常生活で疑問に思うことを見つけ、授業で質問する。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	・オリエンテーション ・講師自己紹介	一年間の流れを説明する。一年後の自分の姿をイメージできるようになる。
2	目標設定	目標設定の立て方。目標とは何かを理解する。 目標を立てられるようになる。
3	人脈	人脈の作り方・整理の仕方を学ぶ。 自分の人脈を整理する。
4	経済的健康 その1 収入の種類	・従業員・自営業・オーナー・投資家などの収入の種類を理解する。
5	目標達成の立て方	①情報 ②モチベーション ③イメージ ④願望 15のステップ一つ一つを理解する。
6	目標達成の立て方②	⑤決断する ⑥目標設定 ⑦プランを立てる ⑧夢泥棒 ⑨仲間探し 15のステップを理解する。
7	目標達成の立て方③	⑩環境づくり ⑪行動する ⑫毎日の成果のチェック
8	目標達成の立て方④	⑬習慣にする ⑭潜在意識に落とし込む ⑮実現
9	精神的背景	心の病気について知り、対処法を身につける。
10	身体的健康	病気のメカニズム・対処法を身につける。
11	心理テスト	エゴグラムの実施。自分の心の癖を知る。
12	経済的健康 その2 世の中	社会保障・税金などの知識を身につける。
13	質疑応答・復習	紙に書いて自由に
14	質疑応答・復習②	後期の課題を見つける。
15	定期試験	マークシート四択(過去問題)

#### 〔評価について〕

- ・評価は、毎回の課題レポートと定期試験の合計100点換算で行う。・授業内で学んだ知識を確認し学則規定に準ずる。

### 〔特記事項〕

基本的には1回ごとに完結する内容で行うが、過去の授業内容を元にステップアップしつつ行うため、毎回確実に内容を身に着けることを心がけること。

# 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名						前田 祐貴 先生			
	解剖学Ⅰ(神経)	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床解剖学分野での学識豊富な医師による講義で、人体の構造と発生を理解するために、構成する各系統のうち神経系の形態的特色と働き、並びに個体発生の基礎的事項についての知識を習得する。									
〔到達目標〕 理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや携帯・構造に関する基礎的知識を学ぶ									
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 解剖学				〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	末梢神経系:脊髄神経				脊髄神経とは何か。頸神経神経を理解する				
2	脊髄神経:頸神経叢、腕神経叢				頸神経叢、腕神経叢の構成を理解する				
3	脊髄神経:腕神経叢の枝、鎖骨上枝				腕神経叢の構成と鎖骨上枝の筋枝、皮枝を理解する				
4	脊髄神経:腕神経叢鎖骨下枝				筋皮神経など鎖骨下枝を理解する				
5	脊髄神経:鎖骨下枝				尺骨神経、腋窩神経、橈骨神経の筋枝、皮枝、マヒを理解する				
6	脊髄神経:鎖骨下枝				橈骨神経。正中神経の筋枝、皮枝、マヒを理解する				
7	脊髄神経:胸神経、腰神経、仙骨神経叢				筋枝、皮枝を理解する				
8	中間確認試験								
9	脊髄神経:坐骨神経				坐骨神経の構成、筋枝、皮枝、障害を理解する				
10	脊髄神経:陰部神経、仙骨神経、脳神経				脳神経を理解する				
11	脳神経				脳神経の名称、構成、機能、障害を理解する				
12	脳神経				囊神経の名称、鯉尾正、機能、障害を理解する				
13	自律神経:交感神経、副交感神経				交感神経の構成、経路、副交感神経の特徴を理解する				
14	自律神経:副交感神経				副交感神経の特徴を理解する				
15	期末試験								
〔評価について〕 中間確認試験30% 期末試験50% 確認試験20% で59%以下を不合格とする。					〔特記事項〕 講義では、解剖をよりよく理解できるように、重要なポイントについてのみ解説する。学生は自主的に教科書を読み、人体の構造と機能についての理解を深めなければならない。				

## 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科 I 部	学年 必修/ 選択	1 必修	開講 区分 授業 形態	後期 講義	担当教員 前田 祐貴 先生		
	解剖学 I (脈管)					時間数 (単位) 30 (2)	授業 回数 15	

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

臨床解剖学分野での学識豊富な医師による講義で、人体の構造と発生を理解するために、構成する各系統のうち神経系の形態的特色と働き、並びに個体発生の基礎的事項についての知識を習得する。

## 〔到達目標〕

理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや形態、構想、機能に関する基礎的知識を学ぶ

## 〔使用教材、参考文献等〕

標準理学療法学・作業療法学 解剖学。病気が見える

## 〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	循環器系:血管	血管系の構造、特徴を理解する
2	循環器系:心臓	心臓の位置、区分、弁などを理解する
3	循環器系:心臓、動脈系	刺激伝導系、心臓の血管心臓から出る動脈系を理解する
4	動脈系:脳に血液を供給する血管	脳の血管を理解する
5	動脈系:脳に血液を供給する血管下肢、下腿部の血管	総腸骨動脈などを理解する
6	動脈系、静脈系	静脈系の特徴を理解する
7	静脈系:特殊循環系	特殊循環系を理解する
8	中間確認試験	
9	胎生期の循環系、リンパ系	胎生期の循環系、リンパ系の構造、機能を理解する
10	呼吸器系:鼻、喉頭	鼻、喉頭の構造を理解する
11	呼吸器系:喉頭、気管、気管支	発声のしくみ、気管・気管支の構造、特徴を理解する
12	呼吸器系:肺	肺の構造を理解する
13	呼吸器系:肺、胸膜、縦郭。感覺器系	胸膜、縦郭の構造を理解する。外皮の構造を理解する。
14	感覺器系:角質器	毛、爪、皮膚腺を理解する
15	期末試験	

## 〔評価について〕

中間確認試験30% 期末試験50% 確認試験20% で59%以下を不合格とする。

## 〔特記事項〕

講義では、解剖をよりよく理解できるように、重要なポイントについてのみ解説する。学生は自主的に教科書を読み、人体の構造と機能についての理解を深めなければならない。

## 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	学年	開講区分	後期	担当教員						
				必修 ・ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 (4)	授業回数
[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
臨床生理を専門とする医師による人体の機能を理解する学問である。生理学後期では、人体の植物機能を構成する循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、血液の形態及び生理機能並びに体液・体温の調節、栄養と代謝を学び、人体の生命現象の恒常性(ホメオスタシス)と運動・活動時の適応(運動生理)について学修する。										
[到達目標]										
医療従事者として理学療法士が習得しておかなければならぬ人体生理反応を学ぶ。 人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官など)は、固有のはたらきや機能を持つ。生理学の講義を通し、これらの機能特性、またメカニズムを知る。										
[使用教材、参考文献等] 標準理学療法学・作業療法学 基礎分野 生理学		[準備学習・時間外学習]								
回	[授業概要]			到達目標(できるようになること)						
1・2	・オリエンテーション 呼吸とガスの運搬について			軌道の構成と役割を理解でき呼吸不全と病的呼吸の分類が出来る。						
3・4	尿の生成と排泄について			心臓の構造と役割が理解できる。更に尿の生成メカニズムを理解できる。						
5・6	酸塩基平衡について			血漿PH調節の意義と緩衝系について理解できる。 アシドーシスとアルカローシスとの分類が出来る						
7・8	消化と呼吸について			消化器官の各部位における消化メカニズムを理解出来る。消化器官ホルモンについて説明できる。						
9・10	内分泌について			ホルモン役割と作用、種類が分類でき内分泌線・内分泌細胞の種類を理解できる。						
11・12	代謝と体温について			栄養の定義を確認し物質代謝たんぱく質代謝を把握しエネルギー代謝と発熱の構造が理解できる。						
13・14	生殖と発生について			男性女性の生殖機能を説明できる。更に胎児の発生を把握し分娩と授乳について理解できる、						
15・16	運動生理について			筋力と持久力について把握でき、筋収縮エネルギー源を説明でき筋力全般を理解できる。						
17・18	・生理学窓復習 細胞と組織・中枢神経と末梢神経・反射			前期で学んだ総復習と国家試験に頻出する問題を解答解説できる						
19・20	・生理学窓復習 脳と脳幹・大脳皮質・骨格筋・感覚と伝導経路			前期で学んだ総復習と国家試験に頻出する問題を解答解説できる						
21・22	・生理学窓復習 血液・心臓・循環・血漿			前期で学んだ総復習と国家試験に頻出する問題を解答解説できる						
23・24	・生理学窓復習 呼気・尿の生成と排泄・消化と呼吸			前期で学んだ総復習と国家試験に頻出する問題を解答解説できる						
25・26	・生理学窓復習 内分泌・酸塩基平衡・代謝			前期で学んだ総復習と国家試験に頻出する問題を解答解説できる						
27・28	・生理学窓復習 生殖と体温・運動生理			前期で学んだ総復習と国家試験に頻出する問題を解答解説できる						
29・30	定期試験			国家試験を想定したテスト及び解答解説						
[評価について] 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。		[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業・体験的な実習的学習を行なう。								

## 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科 I 部	学年	1	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名					中島 圭吾 先生			
運動学	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(4)	授業回数	30

## 〔授業の学習内容と心構え〕

整形外科クリニックでの勤務経験とアスレティックトレーナー公認資格を有しサッカーワールドカップをはじめ多くのスポーツ現場で活動している理学療法士の専任教員が、運動学に必要な力学・運動器の構造と機能に関するキーワードを覚え、人間の身体に運動が生じるメカニズムを関節ごとに理解していく。また、人間の基本的動作(起居動作、歩行動作など)のなりたち、異常が生じた場合の現象も理解する。基礎的用語から徐々に解説を進める。解剖学・生理学の授業と共にきわめて重要な基礎科目であることを理解し、学習してほしい。授業は2コマ続きで行う。

## 〔到達目標〕

- ・人間の動作を観察・説明する際、運動学専門用語を正確に使って表現できるようになる。
- ・解剖学で学んだ構造の知識を元に、歩行動作を中心起居動作の特徴を説明できるようになる。
- ・力学の知識をもとに、身体の操作方法の基本、障害発生時の問題など説明できるようになる。

## 〔使用教材、参考文献等〕

基礎運動学第6版補訂中村隆一他著(医歯薬出版)  
他隨時参照プリント配布

## 〔準備学習・時間外学習〕

基礎科目である解剖学(筋骨格系)の知識が必須となるため、解剖授業の予習復習を徹底すること。基礎的な算数・数学の知識(三角関数・比率など)を復習すること。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1・2	手関節の構造と機能 1	手・手関節の機能と運動・肢位を理解し、説明できる。
3・4	手関節の構造と機能 2	手関節周囲の筋の働き、変形・末梢神経麻痺の症状について理解し、説明できる。
5・6	頭部・顔面の機能と構造	頭部の骨・関節・筋の働き(咀嚼筋、表情筋)について理解し、説明できる。
7・8	下肢帯と自由下肢の構造と機能	下肢の骨・関節の構造、骨盤の構造について理解し、説明できる。
9・10	股関節の機能と構造 1	骨盤・大腿骨の形状、股関節周囲の靭帯の名称と働きについて理解し、説明できる。
11・12	股関節の機能と構造 2	股関節周囲の筋の働きについて理解し、説明できる。
13・14	膝関節の構造と機能 1	膝関節の構造、アライメント、運動の特徴について理解し、説明できる。
15・16	前半の振り返り・質問受け付け 中間確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
17・18	膝関節の構造と機能 2	膝関節周囲の靭帯、半月板の構造と機能について理解し、説明できる。
19・20	足関節・足部の構造と機能 1	足関節・足部を構成する関節の構造と運動について理解し、説明できる。
21・22	足関節・足部の構造と機能 2	足のアーチの構造と機能、足関節周囲の筋の働き、足の変形について理解し、説明できる。
23・24	歩行概論1	歩行周期の名称、歩行に関する専門用語を理解し、説明できる。
25・26	歩行概論2	歩行時の各関節の動き、重心の偏移、床反力について理解し、説明できる。
27・28	運動学習	運動学習に関わる基本用語、基本的な考え方を理解し、説明できる。
29・30	総括 期末テスト	後期に学習した運動学の内容のまとめを通じて、後期の内容の全体像を理解し、説明できる。更に試験で深める。

## 〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は中間確認テスト(50点)と総括後の期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

## 〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。

必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

# 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科Ⅰ部	学年 必修/ 選択	1 必修	開講 区分 授業 形態	後期 講義	担当教員 須藤 久也 先生		
	運動機能論Ⅱ					時間数 (単位) (2)	30 (2)	授業 回数

## [授業の学習内容と心構え]

筋骨格系理学療法を専門とする専任教員による「運動機能」の知識を基礎から学習する。運動学・解剖学の理解を助けるための授業とする。また、運動学の理解に必要な計算に関する知識の復習もおこなう。スポーツリハビリに特化し運動器系の臨床経験の豊富な理学療法士である教員が、臨床の現場で必要な知識を中心に概説・演習をおこなう。積極的に行動し、学ぶ態度が求められる。

## [到達目標]

- ・人体の関節、靭帯、筋に関する基本的な構造と機能一般を理解できる。
- ・頭蓋・脊柱・胸郭・上肢・下肢の連結の構造と、各部の名称を把握できる。
- ・骨格筋の構造と、上肢・下肢・体幹における各筋の起始・停止・作用とその走行を説明できる。

## [使用教材、参考文献等]

- ・基礎運動学 第6版 補訂 中村隆一他 著  
(医歯薬出版)
- ・配布資料

## [準備学習・時間外学習]

解剖学のテキスト、配布プリント等を十分に復習すること。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション	運動機能論Ⅱを受講する上で注意点を理解し、説明できる。
2	運動学・解剖学の基礎確認と復習	身体運動を表す用語の通りに自身の身体を動かせるようになる。
3	・下肢の連結①(股関節)	内窓骨筋と外窓骨筋窓骨と大腿骨の連結の動きを骨模型を使って確認しランドマークの説明が出来る
4	・下肢の筋(窓骨筋)	内窓骨筋と外窓骨筋窓骨と大腿骨の連結のランドマークをグループ内で触診し合いながら理解できる
5	・下肢の連結①(膝関節)	大腿骨・腓骨・脛骨の連結の動きを骨模型等を使って確認しランドマークが出来る
6	・下肢の靭帯(膝関節)①	外側側副・内側側副・膝蓋・前十字・後十字の各靭帯の構造を理解できる。
7	・下肢の靭帯(膝関節)②	膝関節・靭帯系を連結して理解できる。
8	中間確認テスト	国家試験形式で中間確認テストを行い理解力を深める。その後解答解説を行う。
9	・下肢の連結①(足関節)	距腿関節をも含めて、足根骨、中足骨および足の指骨の間に生ずる関節の仕組みを理解できる。
10	・下肢の筋(足関節の筋)	距腿関節、足根骨、中足骨および足の指骨の間に生ずる筋肉の働きを理解できる。
11	・頭蓋、脊柱、胸郭の連結	体幹骨の連結における頭蓋骨、脊柱、胸郭の仕組みを模型を使って理解できる。
12	・頸部、体幹の筋	体幹骨の連結における頸部、体幹の筋の繋がりを理解できる。
13	・顔面、頭部の筋	体幹骨の連結における顔面、頭部の筋の繋がりを理解できる。
14	総まとめ	人体の下肢及び体幹における仕組みを国家試験問題に沿って理解できる。
15	期末試験	国家試験問題形式で本科目の理解ができる。終了後解答解説を行う。

## [評価について]

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

## [特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

## 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科 I 部	学年	1	開講区分	後期	担当教員 樋口 美幸 先生		
	人間発達学	必修 ・ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)  
 障がい者福祉センターで長年、発達領域のリハビリに携わる理学療法士による授業である。人間発達学では、生涯にわたる人間発達の様相を、胎児期・新生児期から乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期において、それぞれが持つ身体的、精神的、心理社会的特徴とその障害を理解し、発達に応じた社会との関わりを総合的に捉え、具体的支援の在り方について学修する。

## [到達目標]

- ・人間発達の原則を理解する事ができるようになる
- ・運動発達、ハンドスキルの発達、視覚・眼球発達、目と手の協調性、遊びの発達、コミュニケーションと言語の発達、日常生活活動の発達についての概要を理解する事ができるようになる。

## [使用教材、参考文献等]

標準理学療法学・作業療法学 基礎分野 生理学

## [準備学習・時間外学習]

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	人間の発達の概要、発達の原則、発達期について①	人間発達学とは何か、発達の概念、発達の原則について理解できる
2	人間の発達の概要、発達の原則、発達期について②	グループ学習で人に伝える事ができる
3	胎生期および新生児期と乳児期の特徴について①	胎生期および乳児期の特徴をまとめる事ができる
4	胎生期および新生児期と乳児期の特徴について②	胎生期および乳児期の特徴を発表する事ができる
5	運動発達と姿勢反射(原始反射・正常姿勢反応)について①	運動発達の原則、原始反射、姿勢・運動発達の概要をまとめる
6	運動発達と姿勢反射(原始反射・正常姿勢反応)について②	運動発達の原則、原始反射、姿勢・運動発達の概要をグループで発表できる
7	視覚・眼球運動の発達について	視覚の発達、眼球運動の発達について調べてまとめ発表する事ができる
8	中間確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める
9	ハンドスキルの発達について目と手の協調性について①	視覚の発達、眼球運動の発達について調べてまとめる事ができる
10	認知機能の発達について①	認知機能の発達についてまとめる事ができる
11	コミュニケーションおよび言語の発達について①	コミュニケーションと言語の発達についてまとめる事ができる
12	遊びの発達、日常生活活動の発達について	日常生活活動および遊びの発達についてまとめる事ができる
13	幼児期の発達、児童期の発達について	幼児期および児童期についてまとめる事ができる
14	青年期、成人期、老年期の発達について	青年期、成人期、老年期についてまとめる事ができる
15	グループ学習(幼児期～老年期)	幼児期～幼年期までの発達の流れを理解できる

## [評価について]

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

## [特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業・体験的な実習的学習を行なう。

## 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科 I 部	学年	1	開講区分	後期	担当教員	
授業科目名	病理学	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	
						30 (2)	
<b>[授業の学習内容と心構え]</b> (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)							
臨床生理を専門とする医師による講義で、病気の発生に関する普遍的細胞レベルの傷害や分子の異常を学習・理解する。							
<b>[到達目標]</b> 疾患の病因・病態を病理形態学的变化から理解し、疾患発生に関する基礎的知識を学ぶ							
<b>[使用教材、参考文献等]</b> 標準理学療法学・作業療法学 病理学			<b>[準備学習・時間外学習]</b> 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	<b>[授業概要]</b>			<b>到達目標(できるようになること)</b>			
1	病因、退行性病変			病因と変性・萎縮・壊死を理解する			
2	退行性病変、進行性病変			萎縮・壊死の種類と例を学び理解する			
3	代謝異常			各栄養素別代謝疾患を学習し理解する			
4	代謝異常			各栄養素別代謝疾患を学習し理解する			
5	循環障害			局所性循環障害を学習し理解する			
6	循環障害			局所性循環障害・全身性循環障害を学習し理解する			
7	アレルギー反応			アレルギー反応の種類と特徴、例を学習し理解する			
8	炎症			炎症の特徴、炎症にかかわる細胞、炎症の種類を学習し理解する			
9	中間確認テスト			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。			
10	腫瘍総論			腫瘍の特徴を理解する			
11	腫瘍			悪性腫瘍の特徴、転移を理解する			
12	中枢神経系疾患			脳卒中、変性疾患、脱髓疾患などを理解する			
13	中枢神経系疾患、抹消神経疾患			脳腫瘍などを理解する			
14	先天異常・遺伝疾患			遺伝疾患、染色体異常症を理解する			
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。			
<b>[評価について]</b> 中間確認テスト+期末テスト合計100点満点で59点以下を不合格とする。			<b>[特記事項]</b> 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

## 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科 I 部	学年	1	開講区分	後期	担当教員	山本 敏之 先生	
授業科目名	基礎理学療法セミナー		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)
							授業回数	15

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

本校の専任教員として学生教育に携わる理学療法士が、学生に臨床現場で必要な身構え気構え心構えを身につけてもらうために前期で学んだことの知識とこれから臨む臨床現場での学び方を統合する科目である。臨機応変とセラピストがなぜ何のためにアプローチを行うのか多職種連携も含めて専門職業観を養ってもらいたい。

### [到達目標]

臨床現場実習で求められる観察力・検査遂行力が出来るようになる。

〔使用教材、参考文献等〕 理学療法評価額 改訂5版 PTOTのための測定評価 ROM測定 第2版	〔準備学習・時間外学習〕 講義での実技時間は短い。各自教室をとり自主練習を実施すること。 PT、患者、評価者のグループを作り行うこと。
--	---

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	総論 肩関節 屈曲・伸展	関節可動域測定法の意義・目的・注意点・測定の流れ・順序・ゴニオメーター使い方を理解し実践できる。
2	肩関節 屈曲・伸展・外転・内転・外旋・内旋	肩関節の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することが出来る。
3	肩関節 水平屈曲・水平屈伸展・外旋・内旋	肩関節の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することが出来る。
4	肘関節 屈曲・伸展・前腕回内・回外・	肘関節・前腕の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することが出来る。
5	手関節 背屈・掌屈 携屈・尺屈	手関節の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することが出来る。
6	肩甲帯 屈曲・伸展・拳上・引き下げ	肩甲帯の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することが出来る。
7	頸部 屈曲・伸展・側屈・回旋	頸部の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することが出来る。
8	復習・中間確認テスト	筆記試験にて効果判定を実施、それにより自分が理解できていない箇所を把握する。
9	股関節 屈曲・伸展・外転・内転	股関節の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することが出来る。
10	股関節外旋・内旋 膝関節屈曲・伸展	股関節の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することが出来る。
11	足関節 背屈・底屈・内返し・外返し	足関節の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することが出来る。
12	体幹 伸展・屈曲・回旋・側屈 上肢 手指屈曲・伸展(第2～第5指)	体幹・手指(第2～5指)の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することが出来る。
13	上肢 母指橈側外転・掌側外転・母指屈曲・母指伸展 (MCP/IP)	上肢(母指)の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することが出来る。
14	復習 総括	PT/患者/試験官にわかれ繰り返しROMの復習をする
15	復習 総括	PT/患者/試験官にわかれ繰り返しROMの復習をする

### [評価について]

中間確認試験・期末試験とする。評価は筆記試験で行う。筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。。

### [特記事項]

年度末に実技試験を実施する。

2021年度 シラバス

東京メソッド・スポーツ専門学校

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

理学療法士として急性期から回復・慢性期まで幅広い臨床経験のある講師による授業である。理学療法の対象となる障害の範囲と性質及び各障害に対する理学療法評価の原理・信頼性・妥当性を検討する。

〔到達目標〕

理学療法評価の総論と一般評価事項、形態測定、関節可動域測定方法が理解できるようにする。

〔使用教材、参考文献等〕 実践 理学療法評価学 医歯薬出版	〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習すること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。
----------------------------------	--

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 総論 評価の意義・目的 国際障害分類、時期と目的	理学療法士が対象となる障害の概念を理解できる。
2	評価の尺度と妥当性	障害に対し何処までを評価するのかを理解する。
3	感染症総論と衛生スタンダードプリコーション	感染症による標準感染予防策を理解できる。
4	記録と病歴のとり方、意識障害・バイタル測定	評価における情報収集からバイタルサインまでの流れが理解できる。
5	形態測定(総論) ランドマークの触診	実際に身体を使ってランドマークを触診する事ができる。
6	形態測定・肢長の実技	四肢長の形態を測定することができる。
7	形態測定・周径の実技	身体各部の形態を測定することができる。
8	中間確認試験	試験により効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	関節可動域測定(肩甲帯・肩関節)	関節可動域測定(ROM-T)の必要性と肩甲骨・肩関節の測定まで実測ができる。
10	関節可動域測定(肘・前腕・手・手指)	上腕の肘～手指までのROM-Tの実測ができる。
11	関節可動域測定(肩甲帯・上肢)の復習	グループで各々ROM-T(肩甲骨・上肢)を測定できるようになる。
12	関節可動域測定(股関節・膝)の復習	グループで各々ROM-T(股関節・膝)を測定できるようになる。
13	関節可動域測定(足関節・足部・足指)の復習	グループで各々ROM-T(足関節・足部・足指)を測定できるようになる。
14	関節可動域測定(下肢)の総復習	グループで各々ROM-T(下肢)を測定できるようになる。
15	期末試験 解説	試験により効果測定を行い、ROM-Tを把握し、技術練習の必要性が理解できる。

〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。	〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。
--	--

## 2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員 樋口 美幸 先生							
授業科目名	動作観察法演習	必修/ 選択	必修	授業形態	演習	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数					
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)													
理学療法の現場経験豊富な講師が本科目の講義を指導する。リハビリテーション医療職として必要な運動機能に対する正しい知識を学ぶ、また運動機能との関連性を理解しながら実際の動作介助誘導や起居動作指導のための基本的な手技のポイントを学習する。													
〔到達目標〕													
運動学バイオメカニクスの基礎(姿勢と構え、支持基底面と重心、テコの原理など)を理解する。またそれらと実際の動作との関連性を理解する。基本的起居動作の動作介助法、動作指導のための基本的手技のポイントを習得する。				〔準備学習・時間外学習〕									
〔使用教材、参考文献等〕 随時、印刷物とVTRにて提示				〔準備学習・時間外学習〕									
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)											
1	ボディメカニクスの原則・起居動作について+問題演習小テスト	起居動作概要と支持基底面と重心、テコの原理など動作に関連するボディメカニクスについて理解する。											
2	動作のボディメカニクス・起居動作について+問題演習小テスト	起居動作概要と起き上がり、立ち上がり、歩行動作のボディメカニクスについて理解する。											
3	姿勢変換のポイント・起居動作について+問題演習小テスト	起居動作概要と姿勢変換介助のポイントについて学習する											
4	移乗動作のポイント・クラインフォーゲルバッハ運動学の基礎+問題演習小テスト	移乗動作介助のポイントについて学習する。運動を構成するテンタクル運動とブリッジ運動について理解する。											
5	起居動作の指導法①+問題演習小テスト	起居動作の指導法について学習する											
6	起居動作の指導法②+問題演習小テスト	起居動作の指導法について考察し意見交換をする											
7	姿勢制御と臥位アプローチ+問題演習小テスト	姿勢制御の基本と背臥位・側臥位・腹臥位へのアプローチについて学ぶ											
8	寝返り動作の評価とアプローチ+問題演習小テスト	寝返り動作の評価と治療アプローチについて学ぶ											
9	起き上がり動作の評価とアプローチ+問題演習小テスト	起き上がり動作の評価と治療アプローチについて学ぶ											
10	座位の評価とアプローチ①+問題演習小テスト	座位の基礎知識と評価の視点を学ぶ											
11	座位の評価とアプローチ②+問題演習小テスト	座位への誘導アプローチの視点を学ぶ											
12	立ち上がり動作の評価とアプローチ+問題演習小テスト	立ち上がり動作の基本知識とアプローチについて学ぶ											
13	立位の評価とアプローチ+問題演習小テスト	立位の基礎知識とアプローチについて学ぶ											
14	歩行の評価とアプローチ+問題演習小テスト	歩行の基礎知識とアプローチについて学ぶ											
15	期末テスト、学習内容の総復習	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。											
〔評価について〕 評価は小テスト+期末筆記試験で行う。筆記試験は小テスト合計点(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 講義は運動学で学んだ内容と実際の動作や介助誘導との関連性を特に理解するよう努めること。毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。配布プリントにて授業を行う。毎回授業毎に小テストを実施する。									